

城南家保ニュース Vol.28-4

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

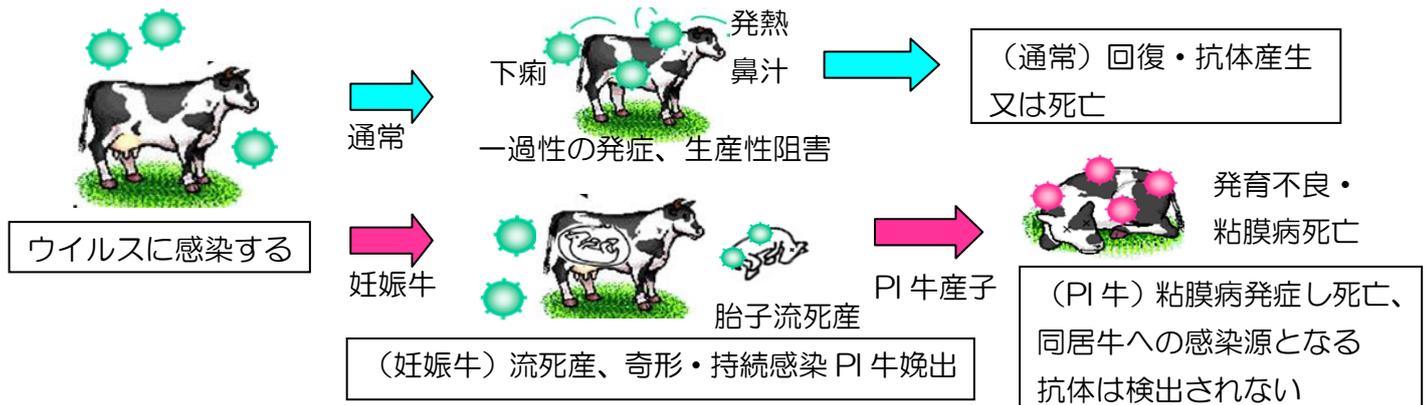
ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



牛ウイルス性下痢・粘膜病に注意しましょう

1 牛ウイルス性下痢・粘膜病とは

牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）の感染を原因とする伝染病です。妊娠牛に感染した場合、流産、死産、小脳形成不全などの奇形がみられる他、正常な状態で生まれても、BVDV に対する免疫を持たず、生涯にわたって BVDV を体外に排出し続け、他の同居牛への感染源となる子牛（PI 牛）を産出します。また、当該牛も発育不良や生育途中で激しい粘膜病を発症するなど、農場の死廃事故増加の原因となります。



（動物衛生研究部門 亀山先生の資料より一部改変）

2 予防対策

平成 28 年 4 月に農林水産省から牛ウイルス性下痢・粘膜病に関する防疫対策ガイドラインが公表され、以下の予防対策が示されています。

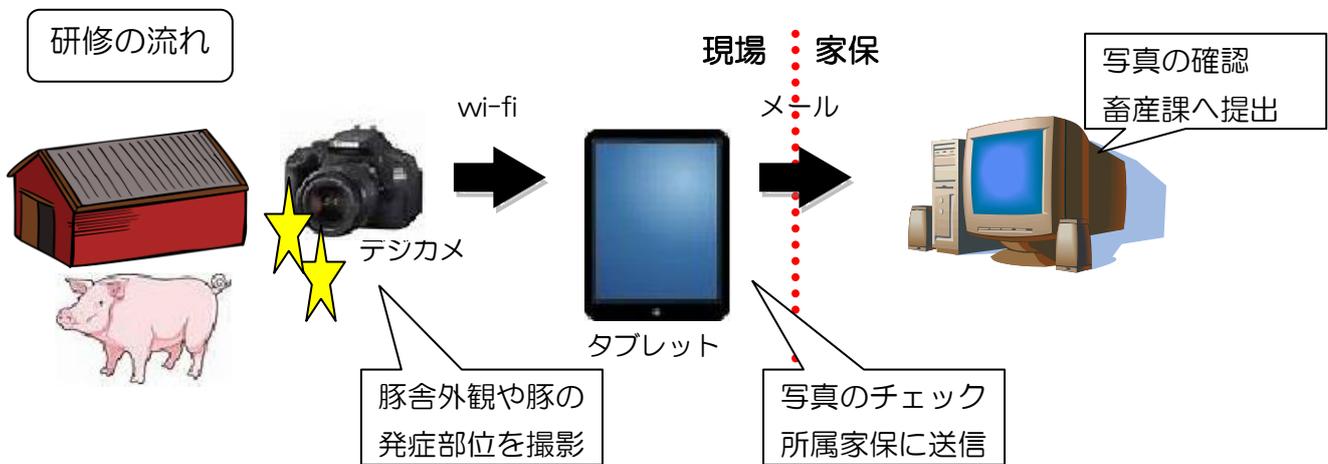
- ①飼養衛生管理基準の遵守を徹底する
- ②初乳に含まれる抗体が十分に予防的役割を果たすことから、新生子牛に対し、適切に初乳を摂取させる
- ③本病を疑う症状が確認された場合には、速やかに獣医師に連絡し、必要な検査を受ける
- ④PI 牛の侵入等を防止するため、導入牛の抗原検査や隔離に努める。
- ⑤BVDV の感染予防及び PI 牛産出リスク低減のため、発生状況に応じて、飼養牛への予防接種を励行する。

口蹄疫に備えた病変部写真撮影研修

去る6月24日、熊本県農業研究センター畜産研究所において、口蹄疫の緊急病性鑑定を想定した写真撮影研修が県内5家保から職員を参集して行われました。例年、牛を用いていましたが、今年は豚を用いて研修を行いました。

研修では豚舎外観や豚の病変好発部位の撮影、所属家保への送信、家保での確認、本庁畜産課への報告といった、一連の流れを確認しました。昨年度までは、写真を所属家保に送信する際に携帯メールを活用していましたが、今回からはタブレット端末を活用することにより、撮影した写真を現場で詳細にチェックした後に送信することが可能となり、更に携帯メールに比べ、送付する時間も短縮されました。

口蹄疫は発生させないことが第一ですが、万一発生した際に迅速かつ的確な対応ができるよう、今後も研修を実施し、スキルアップ等を図っていきたいと思います。



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	台湾	4月28日~5月30 日	地鶏	H5N2
	中国	6月7日	鶏	H5N6

7月1日現在

編集後記 (S.S)

7月に健康診断がありました。おなか周りに肉が付き、体重が増えていました。お金はたまりにくいですが、脂肪は簡単にたまってしまうので困ったものです。また、脂肪は簡単には落ちませんが、筋肉は簡単に落ちます。学生時代に鍛えた筋肉はもう見る影もありません。これではいけませんね。健康のために運動しようと思います。梅雨が明けてから・・・。